

ク ラ ブ 戦 略 計 画

RI 第 2820 地区
水戸ロータリークラブ

令和 5 年 6 月 (改訂)
令和 2 年 3 月 (改訂)
平成 2 8 年 1 2 月 (初版作成)
(初版タイトル「中期戦略計画」)

水戸ロータリークラブ クラブ戦略計画

RI第2820地区 水戸 RC

1. 会員満足度アンケートの結果

水戸RCでは、2023年7月から3年間のクラブ戦略計画を立案するにあたり、クラブ戦略計画委員会の担当で2022-23年度会員に対し2回に分け満足度アンケート調査を行った。第1回アンケートは2022年12月～2023年1月に、第2回は2023年3月～4月に無記名にて、FAX回答またはGoogle FormによるWeb回答方式を用いた。IT担当者1名を除きFAXの送信履歴やGoogle Formの送信記録を非公開とし、アンケートの結果判断・クラブ戦略の立案においては、委員会委員も回答者の特定ができない環境で立案を行った。会員数119名（2022年7月1日時点）に対し、第1回・第2回ともに67名の回答を得た。回答率は年度当初から多少の会員の入退会があるが、年度当初の会員数を母数とすると第1回・第2回ともに56.3%であった。分析は会員全体の満足度の傾向を調査するとともに、在籍により3年以内・4-10年・11-20年・21年以上の4グループに分類し、在籍年数別の傾向も調査した。

(1) 第1回会員満足度アンケートの結果

- ・「クラブに受け入れられている（歓迎されている）と感じるか」の質問に対しほぼ100%の会員がそう感じている。ただし、そう感じていない1.5%がすべて3年以内の会員歴であり、サポートの必要性が感じられる。
- ・「毎週の例会を楽しんでいるか」の質問に対しても95%以上の会員が楽しんでいると感じている。そう感じていない会員5%弱はすべての年代（ロータリー歴）に分布していた。具体的理由では、コロナ禍での制限をあげている会員が認められた。
- ・会員がクラブの現状をどう捉えているかの質問に対して、「明るく打ち解けた雰囲気である」・「活発に活動している」・「現状に満足している」などの回答が各年代（ロータリー歴）で多くの指示があり、特に「現状に満足しているか」の設問では70%の肯定的意見が認められた。一方、「何事も当り障りのない意見が通る」、「現状に不満な点がある」などの少数意見（7%）もあり、会員サポートの重要性が感じられる。
- ・RIや地区の提唱するかつとうに参加している度合いについて、「新会員勧誘」・「会員のためのオリエンテーション」・「募金活動・ニコニコボックス等」・「地区主催の会合プロジェクト」などについて、「水戸RCとして積極的に参加している」と全年代（ロータリー歴）の会員が支持している。

一方、「ロータリー財団活動」・「米山奨学活動」については、多くの会員（90%以上）が「適当」と判断しているが、9%程度が「過度」と回答している。財団活動・米山奨学活動について、会員へのさらなる啓発を計画する、またはこれらの活動のあり方に提言を行うことも含めクラブ内で検討を重ねる必要があると思われる。さらに、3つの項目で少数ではあるが「不十分」の意見が認められた。「国際奉仕」・「他クラブとの交流」に関し、全年代（ロータリー歴）平均的にそれぞれ13%・15%、「不十分」と回答した（不十分以外はほぼ「適当」と回答）。これは、2020年以来COVID19の蔓延によりロータリー活動が制限された結果かも知れないが、正常化に向け再度体制を整える必要がある。

ロータリー全体で言われていることではあるが、水戸RCにおいても「広報活動」が不十分と回答した会員が全体で15%ほど認められた。この項目についてはロータリー歴が長くなるほど割合が上昇していた。

- ・会員による各種活動への参加状況（自己の意識）では、例会・委員会活動・親睦活動に積極的に参加していると考えられる会員がそれぞれ90%、85%、80%と多く、義務的に参加も含めるとほぼ100%である。

続いて財団活動・米山奨学活動・ニコニコボックスなど募金関係は、積極的に参加・義務的に参加が拮抗し合計するとほぼ100%となる。

国際奉仕・地域への奉仕・会員増強・会員のためのオリエンテーションなどは積極的に参加・義務的に参加・参加していないが拮抗し、なかでも、国際奉仕・会員増強は在籍年数が増えるに伴い積極的参加の割合が増加・参加して以内の割合が減少する傾向となった。これらの項目は、担当する役職により参加が必要になることもあり、このような傾向となったと推察される。

広報活動については、在籍21年以上の会員で積極的に参加・義務的に参加合計で100%となったが、それ以外（在籍20年以下の会員）では参加していないが50%を超えていた。クラブ全体の動向と同様、個人レベルでも広報活動が十分なされていない実態が明らかとなった。

- ・水戸RCの活動に関する費用について会員の意識は、情報集会・奉仕プロジェクトへの寄付・義援金・親睦活動などでほぼ100%妥当との意見であった。一方、年会費・財団活動・米山奨学活動については、90%程度は妥当との回答であったものの10%ほどの会員から過度との意見が認められた。

・クラブの会合をより良くするためのアイデアとして、○より良い講演者の選出、○親睦活動を強調する、○より多くの会員が活躍する機会を増やす、○地域社会と交流する機会を増やすなどがあげられた。

・最後に、配偶者・パートナー・家族が、会員がロータリー活動に参加することに対しどのように思っているか、会員目線で質問したところ、○誇りに思っているが32%、○ロータリーのことをよく知らない・関心がないが57%であった。誇りに思っているは在籍年数が増すにつれ比率が増え、逆によく知らない・関心がないは4-10年の会員で最も多く以降減少傾向であった。在籍年数とともに家族例会などに参加する機会が増えロータリー活動への家族の理解が深まると推察される。

(2) 第2回会員満足度アンケートの結果

第2回のアンケート結果については「2. クラブの現状はどうか」以降に記載するRI第2820地区の様式に則った質問が多いため、以下の様式に記載することにより報告とする。

2. クラブの現状はどうか

クラブの長所

クラブの短所

<ul style="list-style-type: none"> ・会員数が多く異業種の人との交流が多く持てる ・歴史と伝統があり、風格のある、誇れるクラブ ・人物的に素晴らしい人が多く会員のレベルが高い ・アットホームな雰囲気ですとまりのあるクラブ ・諸先輩からのアドバイスが勉強になる ・活動が自分自身の勉強になる ・会員間の交流（親睦）が活発 ・転勤者を受け入れてくれるクラブ 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員人数が多いためまとまりに欠ける ・例会時の席の固定化、会話相手の固定化 ・毎週の例会がマンネリ化している ・寄付行為が多すぎる ・欠席者へのサポートが少ない ・懇親の場、会員交流の場が少ない ・特になし
---	--

地域社会に存在する機会（例：新しい会社やビジネス、増えている人口層など）

地域社会に存在する課題（例：経済の悪化、競合する奉仕団体など）

<ul style="list-style-type: none"> ・歴史と伝統のある土地、史跡、観光資源がある ・緑が多く、気候も温暖で、生活しやすい ・「水戸」というネームバリューがある ・県庁所在地なので、情報や文化的施設がある ・平坦な土地、平均的な人口、豊かな土地 ・公園が多く、まちがきれい ・東京が近く、茨城空港や港までのアクセスが良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR 不足、情報発信力の弱さ ・県庁所在地の中で人口が少ない ・駅周辺を含め、経済が停滞している ・強みを生かした街づくりができていない（歴史や都市型公園、芸術館など） ・集客力が弱い ・祭りがいまいち ・うまいものが少ない ・飲食代が高い
---	--

3. クラブは何を目指しているのか

1. 2. の結果を踏まえ、クラブが目指すべき、3年後の未来像の特徴

1. 変えてはならないこと、変えていくべきことを明確にし、RI第2820地区のリーディングクラブとしての自覚を持ち行動する。(外部との連携)
2. 地域社会への奉仕を積極的に行い、地域における存在感を高める。(奉仕)
3. 人を育てることにより社会が発展し豊かになることを望み青少年の活動を支援する。(奉仕)
4. 新たな奉仕活動と継続的活動とのバランスをとり、社会によりよく奉仕する。(奉仕)
5. 行政・他団体と連携し奉仕活動する。(奉仕・外部との連携)
6. 会員企業間の交流を増やし活動する。(研修・奉仕)
7. 自己研鑽に繋がる機会を増やす。(研修)
8. 世代・在籍年数にとらわれず会員間の交流を深化させる。(親睦)
9. 多様性・公平さ・インクルージョンについて考え、時代に即した組織として進化・発展していく。(奉仕)
10. 有意義な変化をもたらす力を高めるため、会員基盤を強化する。(会員増強)

クラブのビジョン(目指すべき将来像)

テーマ「進化する重厚なリーディングクラブ水戸を目指して」

私たち水戸RCは70年の歴史を持っています。多様性・公平さ・インクルージョンの思想を受容し、ロータリーの伝統を持ち地区内のリーディングクラブとして時代に即した進化・発展のトップランナーである誇りを持ち続けます。

そのために何が必要か、私たちは複数回のアンケートを行うことで、6本の柱を導き出しました。

1. 奉仕：より輝く故郷の実現に少しでも寄与できる地域社会・青少年への奉仕
2. 連携：より重要な役割を果たすため行政・他団体との連携
3. 研修：素晴らしきロータリアン、素晴らしき人生につなげるための研修
4. 親睦：会員のつながりを深化させる親睦
5. 増強：有意義な変化をもたらす力を高めるため、会員基盤を強化
6. DEI：ロータリーのあらゆる活動において「多様性・公平さ・インクルージョン」(DEI)を受容し行動

私たちは、カジュアルなロータリーを否定します。

進化する重厚な水戸ロータリークラブを目指します。

そしてRI第2820地区のリーディングクラブとしての誇りを持ち続けます。

3年後の数値目標：クラブ会員数を130人以上

出席率を85パーセント以上

4. どのようにビジョンを実現していくか

具体的優先事項 1：地域社会・青少年への奉仕

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
奉仕における不変と変化	各奉仕委員会の継続事業の見直し	2026年6月	過去の活動について検証する	各奉仕委員会・理事会・クラブ戦略計画委員会
奉仕における不変と変化	新規事業の検討と実施	2026年6月	地域社会のニーズを把握する 青少年のニーズを把握する	各奉仕委員会・理事会
外部への情報発信	情報発信の方略・内容の検討	2026年6月	発信方法の選定 各種規約の策定	公共イメージ向上委員会・理事会

具体的優先事項 2：外部との連携

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
地区への協力	人材の提供	2026年6月	人材の掘り起こし 出向会員への協力	理事会・関係委員会
行政との連携	地域社会への思いやり	2026年6月	地域社会のニーズについて情報収集を行う	各奉仕委員会・理事会

具体的優先事項 3：研修

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
在籍年3年未満の会員への対応	会員へのロータリー教育	2026年6月	ロータリー情報委員会・サポート委員会の連携 推薦者との連携	ロータリー情報委員会 サポート委員会
卓話内容の検討	例会時の卓話の充実	2026年6月	会員のニーズ把握	プログラム委員会
出席向上	夜間プログラム 会員への声掛け	2026年6月	会員のニーズ把握	サポート委員会 出席委員会 親睦委員会

具体的優先事項 4：親睦

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
親睦の効果的実施の検討	既存の実施内容の見直し	2026年6月	現状の把握	親睦委員会 ロータリー情報委員会
親睦の効果的実施の検討	新たな親睦の在り方の検討と実施	2026年6月	会員ニーズの把握	親睦委員会 サポート委員会
例会の見直し	新たな例会の在り方	2026年6月	会員ニーズの把握	プログラム委員会 会場委員会
例会会場の見直し	コロナ禍で使用できなくなっている例会場の在り方の検討	2024年6月	現在の例会場の状況把握	理事会・ 会場委員会

具体的優先事項 5：会員基盤の強化

年次目標	実行項目	達成期日	必要なリソース	担当委員会
時代に即した組織作り	女性会員の増強	2026年6月	候補者の情報収集	理事会 会員組織委員会
時代に即した組織作り	クラブ全体の会員増強への取り組み	2026年6月	会員の理解	会員組織委員会・理事会
時代に即した組織作り	新たな会員増強の手法の確立	2026年6月	委員会機能の活性化	会員組織委員会・理事会

5. 目標に向けての進捗はどうか

・クラブ戦略計画委員会が理事会の委託を受けて各委員会やプロジェクトの進捗の確認を行うものとする。

・クラブ戦略計画委員会は構成として、委員長に直前会長、副委員長に1名の直前幹事、その他数名の委員からなり、当該年度の会長が指名する。

ステップ

1. 当該年度前年、予定者の段階で、各委員会から当該年度の委員会予定を確認する。
2. 進捗の途中確認は年2回行う。（特に会員数、出席率には留意）
3. 各委員会の進捗、申し送り等の最終確認は当該年度の4～6月に行う。
4. 理事会が責任を持つ項目に対しては、会長・幹事に進捗の確認を行う。
5. 途中で修正の必要がある場合、担当委員長及び会長、幹事、理事会に勧告を行う。
6. クラブ協議会にて、中間の報告を行う。
7. 翌年の委員会メンバーに詳しい引き継ぎを行う。
8. 年度の最終、理事会に対し、報告の義務を負う。
9. 2025-26年度に、次の3年に向けた戦略計画立案を行う。